

令和5年4月10日

メムアグリプロジェクト 2022 年度実施報告

北海道の帯広近郊はほとんど果樹が育たない地域として知られている。

東京大学の生産技術研究所と大学院農学生命科学研究科の協働で工学と農学の知を集結し、この地域で実現可能な、果樹や樹木の育成、永続可能な農業、湿原回帰による耕作放棄地の再生に関する研究を実施する。

1) 実施概要

1. 5/25～26 にかけて視察を実施。昨年度、試験的に植栽したブルーベリー・サルナシ・ペカンの苗木の状況を確認。獣害や寒さによる枯死被害が一部確認されたが、引き続き栽培可能と判断し、苗木（シーベリー等）の追加植栽を実施。
2. 寒さ対策のため、ペカン 30 苗を埼玉県内にて保管中。令和5年5月下旬に移送し、屋内走路内側（屋内走路の内側は、周りが囲まれており、獣害のリスクが低い）に植栽予定。
3. 植物の生育不良が生じていた果樹園エリアの土壌改良のため、6月～7月に耕耘とえん麦のすき込みを実施した。
4. 9/3～9/8：圃場と周辺のシードバンクによる植生回復ポテンシャルを把握するため、植生調査および土壌サンプリングを実施。
5. 11/18～11/20：UAV 撮影により LiDAR データおよび空中写真を取得。
6. 数値標高モデル(DEM)、水みち図等の作成により、地形・水文解析を実施。
7. 植生調査データおよび空中写真判読により相観植生図を作成。
8. 東大農学部温室内にてサンプリングした土壌を撒き出し、発芽試験を実施。

研究協力：

大学院農学生命科学研究科附属演習林 富士癒しの森研究所 三浦直子（助教）

2) 研究メンバー

大学院農学生命科学研究科：

堤伸浩（研究科長・教授）、藤原徹（教授）、大黒俊哉（教授）、
岩田洋佳（准教授）、本多親子（准教授）

空間情報科学研究センター：

瀬崎薫（教授）

生産技術研究所：

大石岳史（准教授）、巻俊宏（准教授）、沖一雄（特任教授）

3) 今後の予定

令和5年4月18日に現地で会合を行い、今後の方針について協議する。5月下旬に、現在埼玉で越冬させているペカン苗の植栽を行う。また、ランドスケープデザインを考慮した土地的・生物的環境ポテンシャルの評価、利用可能な植物資源の探索を継続実施予定。

4) 収支報告

収入 : 1,450 万円

支出 : 670 万円

年度末残高 : 780 万円

(円)

収支明細	収入	支出	合計
FY2021 繰越残高	4,518,546		4,518,546
FY2022 寄付受入金	10,000,000		10,000,000
研究支援経費		2,308,000	-2,308,000
旅費等		1,427,890	-1,427,890
設備・消耗品費等		1,139,351	-1,139,351
調査研究費		859,480	-859,480
外部委託費		937,552	-937,552
残高	14,518,546	6,672,273	7,846,273